

喜多流 狩野了一 能の会

第二回 きこ乃舎

ki no kai

おはなし 山中玲子

能 邯鄲

狩野了一

傘之出

浮世の  
旅に迷い来て  
夢路を  
いつと定めん

◆ 2020年6月27日(土)

午後2時30分 開演 (午後1時30分 開場)

◆ 喜多六平太記念能楽堂

東京都品川区上大崎4-6-9 Tel:03-3491-8813

# 番組組

おはなし 山中玲子

休憩 十五分

子方(舞人) 大島伊織  
シテ(産生) 狩野了一

能 邯鄲 ワキ(初使) 宝生欣哉

傘之出 ワキツレ(天匠) 殿田謙吉

ワキツレ(天匠) 館田善博

ワキツレ(興昇) 野口能弘

ワキツレ(興昇) 小林克都

アイ(邯鄲宿の女) 高澤祐介

後見 塩津哲生 中村邦生

佐々木多門

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 桜井均  
小鼓 鶴澤洋太郎 笛 竹市学

地謡

佐藤陽 大島輝久  
塩津圭介 金子敬一郎  
友枝真也 長島茂  
佐藤寛泰 内田成信

終演予定 午後4時45分頃

あらすじ  
昔、中国の蜀という国に、盧生(ろせい)という青年がいました。人生に迷い日々ただ漠然と暮らしていましたが、あるとき、楚の国の羊飛山の高僧に教えを受けるため旅に出ます。道すがら、邯鄲という町で宿を取ります。その宿の女主人に勧められ、粟のご飯が炊けるまでの間、人生の悟りを得られる「邯鄲の枕」という不思議な枕で一眠りすることになります。誰かに起こされ目覚めると、楚の国の勅使より帝位が譲られた事を告げられます。思いがけない申し出に不審がりながらも、玉の輿に乗り宮殿へ向かいます。壮大で豪華絢爛な宮殿で栄華をほしいままにし、五十年が過ぎ、祝宴が催されます。寿命を長らえる酒が献上され、舞人が祝賀の舞を舞うと、盧生も輿に乗り舞い始めます。昼夜、春夏秋冬が目まぐるしく移り変わり、やがて一切が消え失せてしまいます。女主人に粟のご飯が炊けたと起こされた盧生は、五十年の栄華も一睡の夢であり、粟ご飯が炊ける間の一炊の夢であったと気づきます。この世はずべて夢のようにはかないものだという悟りを得、そして邯鄲の枕こそ、自分の求めていた人生の師であったと感謝して、望みをかなえて帰途につくのでした。

※上演中のビデオ撮影・録音・写真撮影は固くお断りいたします。携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りください。その他の音のなる機器のご使用はお控え下さいませ。

山中玲子(やまなかれいこ)

法政大学能楽研究所(教授・所長)。1957年生。著書に『能の演出その形成と変容』、共著書に『能楽離子方五十年 亀井忠雄問書』、『能を面白く見せる工夫 小書演出の歴史と諸相』、『人生をひもとく日本の古典』シリーズなど。

狩野了一(かのりよういち)

シテ方喜多流職分。1967年生。故狩野秀鵬の長男。仕舞「老松」にて初舞台(3歳)。喜多流15世宗家喜多実入門。塩津哲生に師事。「狸々乱」、「道成寺」、「石橋」、「翁」等を披露。重要無形文化財総合認定。日本能楽会、能楽協会会員。

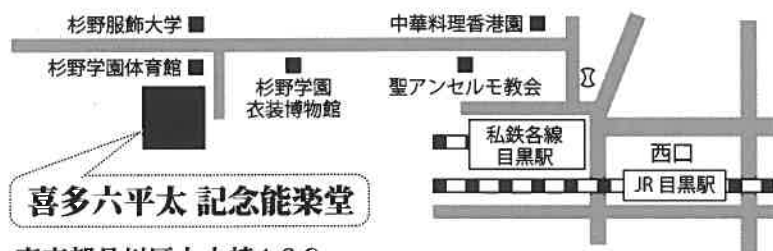
## 【この会】命名の記

一調二機 三声。  
一念発起。

狂言綺語のこの世界に  
気をもって軌跡を重ね  
いつか喜びの

大樹に辿り着くまで。

## 【会場案内図】



喜多六平太 記念能楽堂

東京都品川区上大崎4-6-9

Tel:03-3491-8813

■ JR山手線、東急目黒線、東京メトロ南北線、都営三田線目黒駅より徒歩7分。

## 【入場料】

- ◆ 指定席(一階正面席一部) ¥8,000
- ◆ 自由席 ¥6,000
- ◆ 学生券(二階席のみ) ¥3,000

## 【お申込み・問合せ】

Tel : 090-2312-9499 (狩野)  
Fax : 03-3301-9788 (狩野)  
Mail : ryol\_kano@mac.com

〈喜多能楽堂〉

HP <http://kita-noh.com/ticket>

Tel : 03-3491-8813